第６６回国立民族学博物館運営会議議事要旨

日　時　　令和４年１０月７日（金）１５：００～１８：４０
場　所　　国立民族学博物館第１会議室
出席者
（館外）　井野瀬、岡田、木川、窪田、後藤、富沢、中谷、水沢の各委員
（館内）　宇田川、岸上、園田、野林、信田、平井、福岡、三尾の各委員
（陪席）　吉田館長、猿渡管理部長、一鷓総務課長、若松研究協力課長、馬場財務課長、
　　前原企画課長、北條情報課長
（事務局）溝端総務課課長補佐、河野総務企画係長、佐野総務企画係員

議事に先立ち、岸上議長から、本会議は、国立民族学博物館運営会議規則第５条第１項及び第３項による成立要件を満たしている旨の説明があり､総務課長から配付資料の確認があった。

議　事

１．会議の運営について

（１）館長挨拶

吉田館長から､第６６回国立民族学博物館運営会議（令和４年度第３回）開催にあたり、挨拶があった。

（２）前回議事要旨（案）の確認について

岸上議長から、資料１に基づき、第６５回国立民族学博物館運営会議（令和４年７月１５日開催）の議事要旨（案）の確認が行われ、原案どおり承認された。

２．協議事項

国立民族学博物館長の選考に入る前に、吉田館長が退席した。また猿渡管理部長、一鷓総務課長及び事務局を除く陪席者が退席した。

（１）国立民族学博物館長の選考について

資料２に基づき、機関の長の選考基準についての説明を行い、続いて、前回の運営会議において、館長候補適任者名簿に記載する者を４名としたこと、館長候補者調査専門委員会を設置したことについて報告があり、引き続き、平井委員から、館長候補適任者名簿作成の経緯について報告があった。

投票に先立ち、投票立会人の選出が行われ、館外から中谷委員、館内から平井委員が指名され､館長候補適任者名簿に基づき選考の審議を行い､単記無記名による投票を行った。その結果、館長候補者が選出され、本会議として同人を次期館長候補者として機構長に推薦することを決定した。

なお、本選考の審議に際して委員から種々意見が寄せられた。協議の結果、館長候補者の選考のあり方について、本館に検討委員会を設置し、問題点を洗い出したうえで「国立民族学博物館長候補者の選考に関する申合せ」を見直し、令和５年度中に本会議へ提案することとされた。

（２）教員人事について

岸上議長から、資料３に基づき、人事委員会から提案のあった３件の採用案件（助教の

採用３件）について審議願いたい旨の説明があった。続いて、選考委員会の各主査から選考経過等について説明があり、審議、投票の結果、全件承認された。

３．報告事項

（１）人事異動について

総務課長から、資料４に基づき、前回開催の運営会議以降の人事異動について、報告があった。

（２）人事委員会について

岸上議長から、資料５に基づき、令和４年９月２６日にウェブ会議にて開催された人事委員会について、報告があった。

（３）共同利用委員会について

平井委員から、資料６に基づき、令和４年７月６日、７月１４日、８月１２日にメール開催された共同利用委員会について、報告があった。

（４）国立民族学博物館の動きについて

１）国立民族学博物館の最近の動きについて

各委員等から、資料７から１３に基づき、以下の報告があった。

・園田委員から、入館者数等について
・岸上議長から、本館の活動状況及び新型コロナウイルス感染症拡大にともなう本館の状況と対応について
・吉田館長から、受賞について
・平井委員から、学術交流協定の締結について
・信田委員から、総研大について
・財務課長から、令和５年度概算要求について

２）国立民族学博物館をとりまく動きについて

吉田館長から、資料１４に基づき、次の事項について報告があった。

・海外渡航の動向について
・人間文化研究機構人間文化研究創発センター研究員（特任助教）について

４．その他

館外委員から寄せられた主な意見は次のとおりであった。

・デジタル化に目配りする必要があると思っているので、そのプロセスに注目したい。
・館長選考のプロセスについて今後よく検討してほしい。
・３人の助教が決定し、若返ってよいと思うのだが、テニュアトラックであるので若手の力のある研究者を民博全体の中で育てていくようなシステムを、構造的に作ることができれば良いと思った。
・企画展のアートいう視点が、民博らしくおもしろかった。チャレンジングな企画をどんどんやってほしいと期待している。
・多彩な活動を展開しているが、継続する部分と新たに展開する部分を踏まえて、組織運営のあり方について､内部からもよく考えていただくような時期になっていると思った。
・グローバルに動けるようになってきているから、外国の博物館、美術館との国際展の可能性を模索してもいいのではないか。